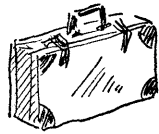


☆世界の子どもたち☆

カナダの幼児教育



古賀嘉寿子

カナダの西海岸にある海と山、湖と森林とあらゆる自然の美しさに恵まれました都市、ヴァンクーバーよりおたよりを致します。

早いものでして、ブリティッシュコロンビア州のナースリースクールスーパーヴァイザーとしての資格を取って働き始めまして三年目を迎えました。こちらではキンダーガーデンと呼ばれるのは小学校に属し、義務教育はキンダーガーデンへ入る五歳から始まります。その前の年齢の子供達が行く幼児園をプレスクール、ナースリースク

ル、プリスクール等と呼ばれ三歳から五歳迄の子供達が二時間から三時間、集団の中で過ごす場になっております。このナースリースクールは市の経営するコミュニティセンターに属してその一つのプログラムとして開かれているもの、教会の室を借りて母親達の協同経営として運営されているものがほとんどでして、日本の様な私立の幼稚園はあまりない様です。ほとんどが二部制で午前中に四、五歳児のクラス、午後が三歳児のクラスと云った具合に、一クラスだけ、しかも一人の先生で子供達の指導がなされて

おります。法律で一人の先生が十五人以上の子供を持てませんし、アシスタントがいた場合は二十五名迄、学校経営になりまして六十五名迄と決められておりますので、日本の様なマンモス幼稚園は、この国では許されません。

私の勤めておりますナースリースクールは市のコミュニティセンターに属するものでして、私は午前中二時間だけ働いております。採用になりましてもいっさいの教育方針等の指示も干渉もなく最初はとまどいましたが、これも一つの国民性なのでしょう。面接して採用したからには信じておまかせしますと言うのがやり方の様です。ただ問題がありました場合はなんの遠慮もなく止めさせられてしまいます。幸いに午後のクラスの先生が経験のある熱心なドイツ人で一年間何かと助言してくれましたので助かりました。こちらの自由保育の中で、日本で学び、経験したもののうち、こちらの子供に無理のないものだけを取り上げ、毎日の保育に生かしております。

一週間五日制でして、月曜日は三歳児、火曜日から金曜日は四歳児のクラスとなっています。アシスタントがいまさんので十五人の子供を受け持っておりますが、まるで違った個性を持つ子供達の成長を助ける側にしてみました

ら丁度良い人数の様に思います。それとカナダの子供達は、統率される事に慣れておりませんし、大変活動的ですので、これ以上の子供を一人で持つという事は危険でもあります。私共のナースリースクールは、広いコミュニティセンター内にありますので、二階の体育館へ連れて行く場合等、勝手に走り出されては危いと思ひまして二列に並ばせて行く様に躰けようとしたのですが、一週間してみまして無理な事がわかり諦めました。二人で手をつなぎ決して走らないお約束だけをしておりますが、この程度ですらなかなか守れないと云った現状です。

カナダ人を中心にヨーロッパ各国から来た子供達、中国人、インド人等アジアの国々からの子供達といたってインターナショナルですので、国際児童年を迎えるにあたりまして、世界中の子供達の幸せを願います気持ちも自然に出てまいります。一人当りの広さも規定されておりますので、広いお室に十五人の子供達がぶつかり合う事もなく、のびのびと遊びを展開し、私共保育者は、集団生活をよりスムーズにするためのスパーヴァイザーと呼ばれ、ティチャーとは資格上呼ばれません。工作の道具一式の置いてある図工のコーナー、粘土やおままごと、母親の使い古したア

クセサリーやドレスの置いてあるハウスキーピングコーナー、大工さんのコーナー、大きな積木のコーナー、レゴやパズル等をして遊ぶコーナー、読書のコーナー（四週間毎に図書館へ行き絵本を二十冊借り出してまいります）それに私共のナーサリースクールは恵まれていまして、三輪車やワゴンを乗りまわして遊べる広いお室がもう一つ続いております。

九時半に登園してまいりました子供達は母親に別れのキスをし、先生との挨拶をすませますと自分の好きなコーナーへ行き遊び始めます。私はだいたいの計画を立て、単元にそって毎日図工のコーナーで子供達の製作指導を致しますが、これも一斉と云うのではなく、作りたくなった子供が三々五々やってまいりまして何かを仕上げ、又次の遊びにもどってまいります。カナダの子供達は東洋人、特に日本人や中国人の子供達より不器用で少し、一つの事に集中する時間も短く落着きがたりますが、反面何事も恐れず、がむしゃらにとっ組んでまいります様なほほ笑ましいところもあります。

九月に新学期が始まり最初の一、二ヵ月位は何をしてよいかかわからずボンヤリしていた子供達、母親から離れら

れなくて泣いていた子供達も、クリスマスを過ぎる頃から集団生活にも慣れ、いくつかのグループに分かれて遊びがスムーズになってまいりました。この頃はあまりにも遊びが発展し、どこでさあ片付けましょうと声をかけたものやらと迷う事度々ですが、一時間ちょっとの間、こちらのコーナー、あちらのコーナーと自分の興味に合わせて動きまわり、充分に遊んだ子供達は満足して片付け始めます。片付けの後、手洗いにいき、全員テーブルについておやつをいただきます。その後はサークルになってゲームをしたり、音楽に合わせて楽器を楽しんだり、歌ったり、全員一斉に致しますが、一日のしめくくりの気持でカリキュラムにしたがって何かをさせなくてはという気持はありません。お天気の日には自由遊びがお庭になったり、おやつの後で外へ出たりとその日の子供達の状態が変わってまいります。

どこの親も子供を思う気持は同じだと思いますが、カナダ人は子供達がナーサリースクールへ喜んで行き、安全に楽しく遊んで来てくれるならよしとし、それ以上の要求はいっさい致しませんので、子供に無理強いする事なく、長い眼で観察し、子供同志の遊びの中から色々な事を学び取らせる様に出来ますので、実にやりやすい様に思います。

歴史も浅く、住んでいる人達全員が世界の色々な国からの集まりで一つの家という観念がないせいか、親が自分の子供も他人の子供もあまり変わらない眼で見る態度にはいつも感心させられます。いけない事、危険な事をした場合、他人の子供でもかまわず厳しく叱りつけますし、反対に良い面も素直に認め喜び合います。でも玩具の取り合い等で一人の子供がぶつたりしているのを、たまたま側にいた母親が見付けたりしますと、ものすごい声で怒鳴りつけ、ぶつた子供に対してお前は悪い子供だときめつけてしまますのには少々閉口しておりますが――。

自分の感情をおさえる事は少しもこの社会では美德ではありませんので大人も子供も自分をむき出しにしてぶつかり合う様を見ますと今でもとまどいます。したがって日本の甘い態度で子供に接しておりますと、いう事を聞いてくれないので、大声で叱りつけなければならぬ事もあります。五歳位まではあまり問題なく素直に聞いてくれます。仕事を探しておりました時、日本人は優しすぎた子供達がいう事を聞かないので動まらないのではないかといわれましたがこの年齢ではそんな心配はいりませんでした。ただ感情の起伏が激しく情緒的にも不安定な子供が多

いので、わめき始めた時に手がつけられず、そんな時には黙って小さな室へ連れて行きしばらく一人にしておきます。そして落ちてから話し合う様にしております。

結婚致します前、三年程日本のキリスト教系の幼稚園で働いた経験しかなく、その後は育児、家事に追われまして十五年のブランクがありましたので、最初幼い子供達に接しました時は緊張でふるえてしまう程でした。子供達の名前を覚えると云う単純な事一つにしましても大変な仕事だったので、言葉や習慣は違いますが、ぐんぐん成長している幼い子供達はどことも同じで、彼等の成長を見守りながら、よき助け人になりたいと願う毎日です。

